

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ことばとあたま・体のリハ室2（タッチ）			
○保護者評価実施期間	2025年3月3日 ~ 2025年 3月 14日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	7
○従業者評価実施期間	2025年3月3日 ~ 2025年3月5日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 5月 25日			

## ○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	生活空間は清潔で心地よく過ごせる環境となっている。 日々から子供の状況を保護者にも伝え、発達の状況などに関して共通理解が出来ている	構造化は自明のこととしてイラストでの見える化など安心安全に過ごせる環境を提供出来るように注力している。 日々の療育や屋外活動などの評価や観察など利用時の状況を直接またはSNSにて伝えるように努めている。室内空間での療育のに加えて、体を動かし、遊びの中でも集団活動に参加することが出来ている。	避難訓練などの避難やイベント時の告知 年間計画の見直しと実践
2	個別や集団でのことばや意味理解の練習、上下肢や手指～巧緻性といった身体機能の練習、社会性や保育、ADLでの練習が展開できる	遠城寺式乳幼児分析的発達検査、Barthel Indexの比較的簡易なものから、WISCやWPPSIなど各種知能検査やS-M社会生活能力検査、DCDのスクリーニング、PVT-R、JSI-Rの複数検査と観察評価の視点で実施できる	身体発育状況はもちろん、精神発達面や言語・意味理解の状態、ADL自立度、社会性の発達等を早期からチェックして日々の療育に還元させてていきたい
3	活動内容の更なる充実	児童発達支援の5領域、保育の5領域を参照しながら児童の得意（まれに不得意も）全般的に活動に還元するよう努めている。内容をミーティングにて考案し遂行している。10の姿も参考の対象に加えてていきたい	10の姿も参考の対象に加えてていきたい 同法人内の他事業所のプログラムの長所も積極的に取り入れながら活動内容の常態化を予防していくたい

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	室内空間：多動性傾向の児童の対応時やクールダウン時など個室空間の確保と集団活動との使い分け	被影響性による多動の傾向が表出した際やクールダウン時など児童の特性により個室空間の確保がどうしても難しい感じる。並行して行われる個別や集団活動との室内空間を使い分けの選択肢が限られる	レイアウトの工夫 安全性と特性に合わせた支援の両立を図る 集団と個別訓練をうまく組み合わせて実施していかたい
2	地域に開かれた事業運営や交流の頻度	地域での児童館や福祉祭り等への参加依頼やお声掛けはいただいている。だが、開催時間帯や日曜・祝日などが障壁となりタイミングを逸している現状がある	公共施設利用や図書館などの利用は不定期だが行えている。日中時間帯での参加可能な行事等への参加、継続可能な形態での参加を検討していかたい
3	事業所が2階のため階段がある マニュアルの活用不足	階段と入口部分がバリアフリー化が出来ていない。階段には手すり、入口ドアもドアクローザーの開閉速度を遅くするなど調整はしている。 マニュアルの周知不足、アナウンスの不徹底により訓練が十分実施できていない	異動時には安全面に配慮した声掛けと下肢や協調性といった身体機能の確認 継続して転居先の検討 年間計画の見直し、防災の日に設定するなど早目にアナウンスを実施していく